

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201
訪問調査日	平成23年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺には田園があり懐かしい故郷を思い起こす山が見え自然に恵まれた環境の中に「憩」があります。近くには保育所、中学校、公民館もあり子供たちや地域の人々との交流、町内行事などに参加をして地域との関わりを多く持ち結びつきを築いています。平成15年開業し現在グループホームの入居者の要介護度が重度化してきて平均3.5以上になっています。一人ひとりの入居者様の健康状態、生活歴、性格、癖などは職員全員が把握できています。個別性を理解して、その人らしく生きて楽しく安全で安心な暮らし生活が送れるように職員が思いを一つにして取り組んでいます。憩は地域密着の拠点となりたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧山陽道に面し周囲には田園やクワイ畑等が有り、閑静で自然を感じる事が出来る。保育所、学校、公民館等が比較的近くにありこれらとの交流も盛んで、又、町内会やボランティアとの関わりも大切にした事業運営がなされている。職員は理念に有る心の繋がりを基本とし、利用者との信頼関係の構築を第一とし、常に助け合いの精神で利用者の思いを大切に笑顔で楽しみがあるケアに取り組んでいる。介護支援では介護度の高い方を含め、日中は極力トイレの使用に努めると共に、夜間の転倒を予防するための工夫に取り組んでいる。又、管理者、職員は地域と共に、更に発展に向けた取り組みに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として考え、理念を目標にケアを実践できるよういつも考えている。その為にミーティング、申し送りなどに話をするようにしています。常に目に見える場所に提示している	心の繋がりを大切にしたい理念に基づいて取り組み、申し送り時に理念について話し、共通認識を持ち実践に活かしている。迷った時に立ち戻れる基本理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域の活動や、行事には積極的に参加している。職員と近所の方々と顔なじみになっており、挨拶はいつもしており、良い近所付き合いが出来ています。	地域の回覧板から予定が把握できる。福祉を高める会からの働きかけもあり、年に5～6回地域活動に参加し、町内の清掃活動や祭りにも参加している。10月の憩祭りには地域、近所からの参加がある。近所との良い付き合いが継続出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを、利用して勉強会、講習会、相談など実施している。8月には憩の家族会を、開催して、家族からご意見、質問を頂き理解を深める事ができました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、介護現場での事故防止対策の取り組みの報告と現況調査報告をさせて頂き話し合いを行いました。	定期的な開催がされている。地域、包括支援センター、家族等の出席を得、事業所の状況報告、行事、リスクマネジメント等の話し合いを行い、出された意見等は活かすように検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所では生活保護の方が7名居られ、生活福祉課とは、連絡を密にしています。介護保険課、障害福祉課などの各担当者の方々と共、相談や連絡が直ぐに取れるように関係を築いています。	生活福祉課と連絡を密にとり話し合っている。また介護福祉課、保険課にも相談できる体制となっている。地域の公民館活動に参加するなど、市町村との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束ゼロの取り組みをしています。身体拘束をしないケアを理解している	スタッフ全員身体拘束の弊害を理解し拘束ゼロに取り組んでいる。事故の起きないようにベッド柵や転倒防止に工夫をしている。そのための勉強会もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを各フロアーに置き、職員がいつでも閲覧出来る様にしている。申し送りや、ミーティングなどで検証しており防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者には、すでに制度の利用をしている。権利擁護に関する制度について学ぶ勉強会を持ちたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明をしっかりと行い、入居者様、家族からの質問や疑問には、必ず回答を示し必要であれば、見学、話し合いの場を設け、本人、家族が理解して納得して頂けるように努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望は、職員が記録に残して職員全体に伝達している。すぐに対応できない時は会議の場で検討する。家族には、苦情箱を設置しているが、職員に直接話されている	担当する利用者の状況を定期的に報告すると共に、家族の来所時等に要望を聞く機会を設けている。出た意見、要望は上司に報告しミーティング等で検討したり、勤務中のスタッフとで検討し、朝の申し送り時に報告周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見提案は、各ユニットでミーティングを直ぐに行い検討する。良い提案は、実現するようにしている	主任会議やユニット毎のミーティングで意見、提案は聞く様にしている。又、日頃から管理者はコミュニケーションを図り、随時意見を聞くなどし運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告に基づき職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、9日を定例にしてリスクマネジメント勉強会をしており、職員のケアの質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する事業所、法人内外の事業所との交流する機会を設けるよう努めている。合同のイベント、勉強会、運営推進会議など実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、環境も変わり不安な様子が見られる為、ご本人、家族からの要望は、真摯に受け止め時間をかけて傾聴する姿勢で信頼関係を築くように支援させて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を聞いた上で、G/H として出きること、出来ないことなどを家族に丁寧に説明しており理解・納得して頂いております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、直ぐに入居出来ない状況があります。他事業所への見学、相談もさせて頂き紹介もしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が楽しみながら役割作業(洗濯物たたみ、紙箱折、ちぎり絵、塗り絵など)をして頂く中で、職員も関わりを沢山もつ様になっています。感謝、お礼の声かけは気持ちを込めて伝えていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、支援相談させて頂く中で、協力をお願いするという関係を大切にしています。入居者様の誕生日会、外出イベントの参加を呼び掛けて、一緒に楽しく過ごして頂けるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前、入居時にご本人や、家族から話をよく伺う様にしており、家族と相談しながら支援に努めている	家族の協力を得る中で墓参りや理美容院等に送迎するなど、個々の要望に応じていけるよう支援している。遠方は事前調査し実現させたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人、一人の生活歴や、個性を尊重して職員が孤立させないように、入居者様同士が仲良く助け合って生活できるように環境作りなど気を配り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退居された方は、こちらから見舞いをしたり連絡を取るようしている。退居者の理由は、死亡が殆どである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・家族とも相談しながら本人の希望、関心、好みなどを把握して支援している。言葉で、充分意思表示できない場合であっても表情や、全身での反応を注意深く見守り支援している	日常の会話の中で思いや要望の把握に努めている。意思表示の困難な方は顔の表情や動きを注意深く見守り、意向を汲み取る様になっている。好みの食事や関心事にも配慮し納得のいくよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴に関する情報を本人と家族、その人の昔をよく知る人から教えてもらっている。入居前の利用、入院していた機関、施設と連絡を取り情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態が変わるという認識を持ち、状態の変化に応じて細かいケアをしている。健康管理記録、介護記録を書いて申し送りをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の間でミーティングをして話し合い介護計画を常に意識して日々のケアに活かしている。ご本人、医師や看護師、家族、職員、必要な関係者と話し合いながら介護計画を作成している	介護計画、サービス計画書についてスタッフとのミーティングで話し合い、アセスメント検討した問題点、モニタリング、担当者会議、家族の意向や思い、本人の思い等を踏まえたものとなっている。状態変化ある時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌、身体状況の記録を取り、必要な情報は常に閲覧・回覧し、実践や介護計画の見直しに活かせるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとって「憩」の場所として他の入居者様の迷惑にならないなら、一人ひとりの要望に添った支援を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化活動への参加や、交流、数々の慰問市の担当課との協働による支援。警察、消防との連携による防犯、防災の対応など充実した支援を進めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望を優先しながら今後、安心して適切な医療が受けられるように、かかりつけ医療機関を、ご本人、家族と話し合いながら決めている	本人・家族が希望するかかりつけ医や協力医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。内科、皮膚科の往診や歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	福山記念病院の訪問診療とG・H憩のパート正看護師に情報、気づきなどを伝えて適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院からの説明には、必ず職員、家族が同席して退院までの計画を把握している。洗濯物や必要物品購入も相談して分担している。常に家族と職員が、入居者様を支える態勢をとり、病院との連携も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けては、入居時に現状とリスクについて説明して理解を得ている。事業所の出来る事、出来ない事は、病院の医師や、看護師の意見を聞いて、見極めてから、ご本人と家族に説明をしている。最期は後悔しない様に慎重かつ綿密に支援している	事業所で出来ること出来ないことを入居時に本人家族に説明している。可能な限り事業所が対応し重症の場合は医師と看護師に相談している。看護師は週3回来所し利用者を把握している。後悔しない支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練はしていないが、研修会などに出席したり、また急変マニュアルは、目の届く所に置いてある。実践力を付けるために努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などを利用して消防をはじめとして地域の有権者に入居者の様子を含めた事業所の実態を理解して頂き災害の時には支援して下さるような協力体制を築いている	職員は消火器や避難経路の確認は把握しているが、夜間を想定した訓練等の実施がない。消防署の協力や運営推進会議で協力を呼び掛け、地域との繋がり、体制を築いている。	地域との協力体制作りを強化し火災、災害を常にシミュレーションし、夜間想定訓練に向けた取り組みにも試みることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大切にし、なおかつ親しみやすさを失わない家族的な対応を心がけている	利用者も職員も丁寧な言葉使いで一人ひとりを大切にされた対応となっている。トイレ介助等は特に気を配った支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の動作が緩慢になったり行為が中断しても、せかすような声かけをしない、その人の状態に合わせて、向き合うように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	加齢による重度化、認知症の進行に伴い、日常生活の維持が困難な方が、増え続ける中で、職員は、精いっぱい寄り添う支援を続けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、近くの理髪店にお連れする方や、訪問美容師さんによるカット、毛染めをされる方など希望に添って支援をしている。化粧品も揃えており、外出の時にはお化粧品をして差し上げています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を含め、入居者様のリクエストに応じた食事を提供している。入居者様の動きを把握しながら準備や食事、片付けをしている。職員も、同じ物を食べながら安全に、安心して楽しい食事を心がけている	簡単な食事の下ごしらえを手伝ってもらっている。職員も同じ食事をして利用者の方に安心を与えている。個別レクの時食事の好みや食べたいものを聞いたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、記録して食べる量や水分量の確保に役立てている。認知症による摂食障害や、嚥下障害のある方にも、個別対応をして食事介助をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の生活習慣に合わせて夕食後の口腔ケアはしています。歯科医師の訪問診療を受け定期的な口腔ケアや、歯の治療をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の個々の状態に合わせてパットの屋用、夜用を使い分けている。一人ひとりについて排泄パターンを把握しその方に合わせた声かけとタイミングで誘導し介助を行っている。パールン対応の方には、受診支援を行っている	排便には食事の工夫や使用し易いよう改修し、日中は特にトイレ使用をしている。パターンの把握をしており、トイレ誘導をし自立に向けた支援をしている。夜間、居室での対応は足元センサーやタンバリンを利用し効果を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては食事の他にも、おやつに色々な飲み物を用意することで飲水量を増やす工夫、繊維質の多い食品、乳製品、ゼリーを採り入れている。嚥下困難な方には、とろみを付けて介助支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	認知症の進行から入浴を拒む方、便失禁、汚染の方も増えているため、シャワー入浴で清潔保持に努めている。希望に応じて、毎日入浴はできるが、血圧、体温、様子変化のチェックを行い入浴の可否を看護師と職員で確認している	バイタルチェックをして看護師の判断を求めた入浴支援をしている。週2回を目安にしているが清拭、足浴のみになる日もある。立位不可能な方には2人で介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、少しひと休み出来るように、リビングにソファを置いている。又、一人ひとりの状態に応じて居室で、昼寝をしてもらっている。夜間、眠れない方には、温かい飲み物を出したりして見守りを行い眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋が変わるたびに保管しており、職員は、作用、副作用を確認している。特に薬の変更や、用量については理解して服薬管理を行っている。症状の変化についての確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌のファイルを用いて皆で、歌ったり、カレンダーの塗り絵、ちぎり絵、間違いさがし、計算、漢字、広告の紙で折る箱などの手作業は、出来る方はしてもらっています。ゲームやレクも様々な場面で職員と一緒にやっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方は、自動車、車椅子を利用して戸外へ出て、外食、買い物、散歩など支援を行っている。遠くて距離がある場合は医療機関や、家族と相談しながら、本人の希望に添えられるように支援している	家族や医師と相談の上外出し、花見や菊花展などのイベント、ドライブに出かけることもある。又、本人の希望に添うよう買い物、散歩、外食など外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご本人と家族とよく話し合い、その方が納得し安心できる方法をとって頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は、家族や相手先の事情を把握、考慮して家族や相手先に迷惑でないようなら電話、手紙は、ご本人の希望に添えるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドやカーテン、照明、テレビの音も調整して落ち着いて生活出来るような環境、空間を作っている。季節や入居者様の体調に合わせて温度調節を行っている。季節ごとのならわしや、イベントの飾り物も取り入れている	季節を表す装飾やイベントの展示もあり、事業所内は落ち着いた雰囲気だった。共用の空間も利用者にマッチして落ち着いた暮らしが出来ているように見えた。空気の様子も無く照明もテレビの音も違和感を感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒などの危険に充分配慮して、皆が集まる場所、居室以外で、一人になれる場所、気の合った人たちが過ごせる場所を用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が、家で長い間使っていた物や、愛着のある物を居室に置くことで、居心地よく過ごせるように工夫をしている。写真のアルバムなども、持ってきて頂いている	思い出のアルバムが飾られていたり馴染みの品々を居室に置き、安心して過ごせる雰囲気だった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当職員、フロアーの主任が中心になり、一人、ひとりについて、カンファレンスや、申し送り等で心身の健康状態について話し合いをしている。ご家族に相談、報告しながら安全に安心して生活できるように努めている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	自己 35 外部 13	火災発生時の通報避難、消火訓練を全職員が参加して安全に実施できるよう取り組む。消防計画に基づいて訓練を年2回実施できるよう取り組みたい。	通報、避難誘導訓練、消火訓練を通して職員の役割分担を徹底させる。 地域の方の協力を得る。	マニュアルに基づいて1Wの期間を設けて事前に全職員が参加できる勉強会をする。 新任職員は消火器を使って初期消火訓練をする。 2/8「地域防火対策の研修」参加予定	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。